

文明史基礎研究領域 履修例

| | | | |
|----------------------|---|---|--|
| 学生の専攻分野・ 出身背景等(例) | 総合科学部で地域研究を専攻した 学生 | 文学部で西洋史を専攻した学生 | 商社で外国駐在を経験し、比較文 化を専攻する社会人 |
| 研究テーマ(例) | 近代欧米の紛争処理に関する歴史 的研究 | 日本とフランスの文化の比較社会論 的研究 | 日本の欧米化と宗教習俗の変容に 関する歴史的研究 |
| 履修科目(例) | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(文明史基礎研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 文明共存論 科学・技術・社会論 宗教学 社会文化史 【他領域科目】 (4) ヨーロッパ地域研究 社会動態論 自由選択科目 (4単位) アジア地域研究 英米地域研究 | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(文明史基礎研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 社会文化史 比較教育社会論 比較文学 異文化理解 【他領域科目】 (4) 日本文藝社会研究 対照言語学 自由選択科目 (4単位) 文明共存論 ヨーロッパ文化社会論 | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(文明史基礎研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 社会文化史 宗教学 異文化理解 社会人類学研究 【他領域科目】 (4) 日本地域研究 哲学・思想 自由選択科目 (4単位) 応用倫理学 ヨーロッパ思潮社会論 |
| 教育目標(例) | 現代文明の特徴と問題点を共時的 視点と通時的視点をクロスさせるこ とによって把握するとともに、世界 の諸地域に関する知識を有し、広い意 味で平和学の構築に資する人材、 紛争の解決にも多角的視野から貢 献しうる人材を養成する。特に、紛 争の背景と原因を歴史的に把握し、 解決に向けた提案のできる人材を 養成する。 | 日本とヨーロッパを中心とした世界 の社会と文化を、広く歴史的視点か ら比較研究し、複眼的な価値観を養 い、異文化理解と諸国民共存とに貢 献しうる人材を養成する。特に、国 際関係に関しては、表面的な友好を 唱えるのではなく、相手国の実情を 深く理解し、互いの異質性を認めた 上で交流を行える人材を育成する。 | ヨーロッパと日本の、中世・近世から 現代に至る社会や宗教習俗の変遷 に関する研究を通じて、我が国の歴 史と異文化とに対する知見を深め、 その上で後進の指導にあたるリー ダー的人材を養成する。特に留学 生に関しては、日本に関する知識を 深めるとともに、自国の文化を外か ら見る視点を獲得よう指導する。 |
| 授与学位 | 修士(学術) | 修士(学術) | 修士(学術) |
| 養成する修了生像 (例) | <ul style="list-style-type: none"> ● 博士課程後期進学者 ● 大学において平和学・教養教育を 担当する教育・研究者 ● 政策系シンクタンクにおいて、国 際関係について具体的な提言ので きる研究者 ● 国際機関で紛争処理を担当する 専門職員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 博士課程後期進学者 ● 大学において比較文化・比較社 会学を担当する教育・研究者 ● 自治体の国際交流に関して具体 的な提言ができる公務員 ● NPO・NGOで、日本の国際貢献に 寄与する活動を組織できる職員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 異文化、宗教習俗の変遷への深 い理解のもとに、学校教育の現場で 世界史を担当できる者 ● 文化・宗教習俗の多様性を理解 し、国際的に活躍できる商社マン ● 政府・自治体・NGOなどの、国際 関係を担当する部署で働く者 |